

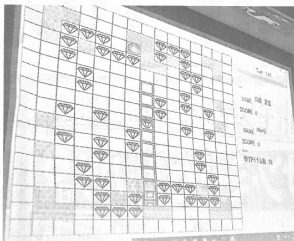
プログラミング 小中生競う

16歳以下の子どもたちがプログラミングの腕を競う「U16山梨プログラミングコンテスト」が7日、甲府工業高校で開かれた。NPO法人「山梨ICT&コンタクト支援センター」などの実行委が主催で、競技、作品の両部門に県内外の小中学生計6人が参加した。

コンテストは2011年に北海道旭川市で始まり、三重や愛媛、長野など各地に広がっている。県内では昨年に続き2回目の開催となった。

競技部門は、1対1の対戦型ゲーム「CHaser（チェイサー）」を使って3人がトーナメント方式で戦った。碁盤目に区切られたステージで、双方に割り振られた「C」と「H」のキャラクターが、あらかじめ作ったプログラムに従って交互に動き、「宝石」を集めて得るポイントを競う。

決勝では、前年優勝の山梨英和中3年の吉川柊（もみじ）さん（14）と甲斐市立敷島小5年の兵藤蒼空（そら）さん（10）が対戦した。兵藤さんがまず1勝したが、先攻後攻を入れ替える間に吉川さんが別の戦略のプログラムに変更して勝ち、延長戦で逆転優勝を決めた。吉川さんは「戦略を変えたのがうまくいった。自作の携帯アプリをリリースしてみたい」と意



①スクリーンに映し出された「CHaser」の対戦画面②試合を見守る吉川柊さん（右）と兵藤蒼空さん＝いずれも甲府市塩部2丁目

甲府でU16コンテスト



欲を見せた。

その後の作品部門では、6人が自作のシューティングゲームやWebサイトなどを壇上で発表し、狙いや工夫した点を審査員にアピールしていた。（野口憲太）